

平成29年第13回大川市教育委員会（定例会）会議録

平成29年10月26日、大川市役所第2委員会室において、平成29年第13回教育委員会（定例会）を開催した。出席者及び会議の経過並びに結果は次のとおりである。

1. 開会及び閉会に関する事項

開会 15時30分
閉会 17時00分

2. 出席委員の氏名

教育長 記伊 哲也
委員 貞苺 清
委員 谷川 朋昭
委員 一ノ瀬直子
委員 蔵本美保子

3. 欠席委員

なし

4. 事務局等の出席者

学校教育課長	下川 慎司
学校教育課主幹	古賀美保理
生涯学習課長	永尾龍之介
学校教育課長補佐	本田 龍雄
生涯学習課長補佐	岡 辰磨
記録者・学校教育課総務係	永島 潤一

5. 傍聴者

なし

6. 付議案件

審議事項

(1) 議案第26号 教育委員会の点検・評価について

報告事項

(1) 臨時職員等の任用について

行事予定(11月)

7. 教育長の挨拶の要旨

(1) 新任教育委員（蔵本美保子委員）の紹介

(2) 教育長会議（10月17日）の報告

①長住小学校（福岡県）での事故について

理科の実験中に塩素が入った試験管が割れ、13名の児童が救急搬送された件で、南筑後教育事務所長が指摘されたのは、事故発生時刻と救急隊が到着するまでの間が1時間10分もあり、この間、学校側は何をしていたのか。学校の判断が非常に遅すぎる。さらに、119番通報したのが、教頭や校長ではなく一般の教諭であった。推測だが、きちんと状況を把握

しないまま慌てて連絡した結果が、ドクターヘリや救急車が10数台来る状態に繋がったのではないかと。こうした状況で長住小学校周辺は騒然となったようである。児童に関しては、幸い大事には至っていないようであるが、今後はマニュアルに沿った危機管理を徹底する必要がある。

②池田中学校（福井県）の件について

今年3月、担任と副担任の厳しい指導が原因で、中学2年生の生徒が自殺をした。ニュースなどでも連日取り上げられているが、県内の中学校でも過去に教師と生徒によるいじめ事件があった。この問題は、教育委員会も認めており、校長も依願退職を届け出た。所長が指摘するのは、校長が当初、生徒と教諭との間にトラブルはなかったと説明していたが、結果的にはあったと訂正した点である。隠蔽等々は非常に良くないということである。この数日後、本市で児童3人が車に撥ねられ負傷する事故が起きた。この事故に関しては、学校、教育委員会、事務所の危機対応ができたと思う。3人の児童の状態は、小学1年生の子が歯を折り縫合、2年生の女の子が足首を骨折、3年生の子はかすり傷で済んだ。いずれにしても、命に別状はなかった。その後の保護者への対応や学校の授業も適切に行われた。過去に他県で発生したサッカーゴールの転倒事故が、本市でも今年1月に起こった。いじめに関しても本市で起こらないとは限らないので、学校や教育委員会も危機管理の徹底に努めたい。

8. 議事の概要

審議事項	(1) 議案第26号 教育委員会の点検・評価について
委員	目標4の項目で、「障がい」の表記について、「障害」と「障がい」が混在しているが、整合の必要はないか。
事務局	ご指摘のとおり、漢字の「害」はひらがな表記に変更させていただく。
委員	いじめの部分で、スマートフォンを使用したSNS上のトラブルの話をよく聞くが、そのような内容はあるか。
事務局	教育相談員が学校を訪問し、相談内容を聞き取りしており、その件数や内容がP38の表にまとめられている。これは教育相談室が把握している件数である。その他にSSWやSCが学校へ出向き、対応が困難な場合は、別の機関へ引き継ぐこともある。いじめに限ってはいないが、そのような件数を公表している。
教育長	平成28年度分でスマートフォンによる「いじめ」に関する事例は挙がってきていない。今年はどうか。
事務局	スマートフォンに関連した「いじめ」の報告は挙がってきていない。
教育長	あっているかもしれないが、学校が認知していない場合もある。
委員	学校では先生に相談があっているようなので、それは相談件数として挙がらないのか。
教育長	認知していないということは、相談はされていないことになる。

委員	単なる悪ふざけなど、日々の些細なトラブルは実際にあっていると思うが、それが契機となっていじめに発展する場合も考えられるので、全く何もあっていないわけではないと思う。実際と報告内容とに差を感じる。
事務局	いじめに該当するかどうかの判断は非常に難しいところもある。教育相談室やSSWも相談を受け付けているので、周知に努めたい。
委員	目標4の読書活動の推進の内容に「本からの挑戦状」の記載がないように見受けられるが。
教育長	P29の下から3行目に記載はあるが、もっと具体的な記載があってもいいように思う。
事務局	各中学校の参加人数などを分けて数字を出すことはできるが、これ以上の記載は難しい。
教育長	「本からの挑戦状」の成果があまり表記されていない。読書が増えたことがグラフに反映されていないと思う。
事務局	P30の「週1回以上学校や地域の図書館へ行く児童生徒の割合」のグラフが示すとおり、大川市は全国に比べ大幅に数値が高いことから見て、「本からの挑戦状」の効果が表れているのではないかと思う。平成27年度からの3カ年事業で、特に中学校に関しては成果が上がっている。
教育長	今年の県の教育長研修会においても大川市の「本からの挑戦状」は発表していただいた。中学生のこのような取組みは珍しいようだった。
教育長	P42の防災教育・安全教育の推進の内容に防災についての要素がない。防災教育に関する取組みも今後は把握していく必要がある。
委員	家庭教育や地域の分野では、定着や継続が重要と考えるので、課題や問題点が明確になっている部分に関しての記載が必要ではないか。例えば、通学合宿に関して、現場の生の声や、逆に担当課からの指摘やアドバイスなど、まとまった意見があれば入れてほしい。
事務局	通学合宿については、全体情報交換会を実施しており、各実行委員会からの報告や意見の交換が行われている。平成28年度の情報交換会では、非常に前向きな意見が多かった。会議等で集約した意見等については、29年度版に記載していきたい。
委員	ふれあいの家を活用した体験活動について、施設の位置等も要因かとは思いますが、PRが不十分で参加人数が少ないのではないか。全体的な活動内容とジュニアリーダーの育成について、どのように取り組まれているのか、また現在の活動や活躍はどうか。

事務局	ふれあいの家の事業については、市報などで周知を行っているが、高齢者と子供向けの事業が多い。各種団体に参加を呼びかけているが、効果的なPRができず、周知が市全体に広がっていないのが現状である。
委員	良い施設ではあるが、十分な活用がなされていないと思う。
事務局	年齢に応じた事業が8つあるが、年間を通して複数回開催する事業もあり、全てに参加する人は少ない。PRをして広く参加を呼びかけているが、その手段に苦慮している。ジュニアリーダーの育成に関しては、活動面においては月2回文化センターでジュニアリーダーの会議を開き、活動内容の報告と今後の活動方針などを話し合っている。最近では、木工まつりでの出店のほか、通学合宿ではスタッフとして参加し、子どもたちとのふれあいを目的に勉強を教えたりしながら、運営にも関わってもらった。子ども会スポーツ大会などのイベントの際には、進行を担当している。ジュニアリーダーがイベントに従事する際には、ジュニアリーダー用のシャツを着用しPRしてはいるが、なかなか加入者増には結びついていない。
教育長	イン・リーダーづくりは育成会。イン・リーダーが少なくなってきたので、ジュニアリーダーも減ってきているとの回答だったが。
事務局	ジュニアリーダーになるためには、イン・リーダーの研修を受けなければならず、イン・リーダーの研修を受けても、なかなかジュニアリーダーに入ってくれない。
教育長	以前は加入していたが、なぜか。
事務局	数年前から、多く加入していた学年が抜けたためである。
委員	魅力的なジュニアリーダーの存在があれば、加入者が増えるのではないか。イン・リーダーが憧れるようなジュニアリーダーの活躍があれば、変わってくるのではないか。
事務局	ジュニアリーダーの活動は、子どもたちのためになる活動だと思うが、少年野球や塾などの習い事で非常に忙しく、それも加入者が増えない要因の一つと考えられる。
	《採決》 全員挙手により原案のとおり承認
報告事項	(1) 臨時職員等の任用について
	質問・意見なし

<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大野島小学校の組体操練習中の事故（平成24年9月26日）について ・大岡組との控訴審について ・統合中学校の基本設計について
<p>行事予定 (11月)</p>	<p>学校教育課長、生涯学習課長より行事予定について説明を行う。</p>

以上、会議の次第は、その内容が正確であることを証するため、ここに署名する。

大川市教育委員会教育長

大川市教育委員会委員